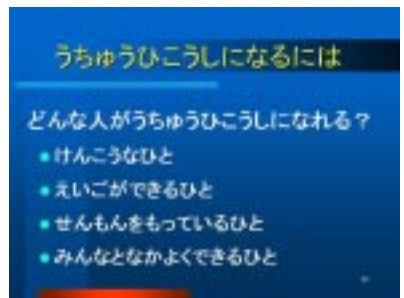




夢はひろがる、 宇宙のかなたへ

2004年1月10日、宇宙飛行士・古川聡さんを招いて、風の谷幼稚園との共催で「冬の講演会」が開催された。集まったのは、年長クラスの幼稚園児から、てら子屋に参加したことがある小学生、園児らの父兄たち約120名ほど。ビデオやスライドを使いながら、宇宙での暮らしぶりや宇宙飛行士になるための訓練の様子など、興味深い話が次々と披露された。

講演会で使われたスライド写真
(提供 / JAXA)



きっかけはウルトラセブン

「みなさん、こんにちは」。宇宙飛行士の青い制服を着た古川さんが、マイクを握って話し始めると、ざわついていたホールが一瞬にして静かになった。ひざを抱えて古川さんを見つめる子どもたちのまなざしからは、「宇宙飛行士ってどんな人なんだろう?」という興味と好奇心がありありと見て取れる。

「もともとボク、お医者さんなんです。それから宇宙飛行士になりました。どうしてでしょうか?」。子どもたちの大部分を占める10歳以下の子どもたちを意識して、やさしい言葉で語りかけるように話す古川さん。「ウルトラセブンなんです。子どもの頃、テレビでやっていたウルトラセブンが大好きで、毎週見ていました。それで宇宙が好きになって、いつ

か行ってみたいなと思っていました」。ウルトラセブンと聞いて、子どもたちの父兄であるお父さん、お母さんたちの顔にも微笑が広がる。きつと今日の講演会を、子どもたち以上に楽しみにしていた人も多いに違いない。

地上と違う宇宙での生活ぶり

「まず初めに、宇宙飛行士が宇宙でどんな生活をしているのかを見てもらいます」と古川さん。会場が暗くなると、国際宇宙ステーション内での生活を映したビデオがスクリーンに映し出された。空中に浮かんだ食べ物を口を開けてはおぼる宇宙飛行士、狭いロッカーのような場所でも固定して眠る宇宙飛行士…。子どもたちは、地上とはいろいろな面で見つめるその生活ぶりを食い入るように見つめている。

3分ほどの短い映像が終わると、スクリーンにスライドを映しながらの説明となった。スライド上の説明は、すべてひらがなとカタカナ。低年齢の子どもを対象としていても、確かなことを伝えたいという古川さんの真摯な人柄が伝わってくる。

「この人を見てください。手を縛っていますね。手をそのままにして眠ると、こんなふうにキョロシーみたいに上がってきちゃう。そのため、切つてはいけないスイッチを切つたりすると大変なので、縛つてから寝ます」。古川さんのそんな説明に、子どもたちから「へえ」という驚きの声が上がると。

古川さんの将来の実験の場となる、建設中の国際宇宙ステーションの話では、「宇宙ステーションは地上からも見えるんだよ」という古川さんの説明に、色めき立つ子どもたち。「明日の朝、6時11分から4分ぐらい西の空に見えます」と古川さん。「起きられる人?」と聞くと、ほぼ全員が手を挙げた。

質問コーナーは難問珍問が続出

スライドを使った説明のあとは、質問コーナー。古川さんが「聞きたいこと、何かある?」と問いかけると、何人かの子



スライド上の説明はすべてひらがなとカタカナだった (提供 / JAXA)

ふるかわ さとし

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) に所属する宇宙飛行士。1964年、神奈川県横浜市生まれ。東京大学医学部医学科卒業。2000年同大学博士 (医学) 取得。1989年から東京大学医学部附属病院第1外科学教室などに勤務し、消化器外科の臨床および研究に従事。1999年2月、NASDA (現 JAXA) よりISS (国際宇宙ステーション) に搭乗する日本人宇宙飛行士の候補者として、星出彰彦氏、角野直子氏とともに選定される。1999年4月からNASDAが実施する日本人宇宙ステーション宇宙飛行士の基礎訓練に参加、同訓練修了後、2001年1月宇宙飛行士として認定される。

どもが元氣よく手を挙げる。「宇宙の温度はどれくらいあるんですか?」「宇宙の広さは?」といった宇宙に関する素朴な疑問から、「宇宙飛行士が具合が悪くなったら、お医者さんとか来るの?」といった生活感あふれる質問まで、子どもたちは好奇心のおもむくまま、さまざまな質問をぶつけてくる。「宇宙では、太陽の光が当たっているところは100度よりも上になるの。でも太陽が当たらないとマイナス150度くらい。びっくりするほど寒いよね。でも、宇宙服を着ていれば中は普通の温度だから、大丈夫です」と、古川さんはその一つ一つの言葉を選びながらわかりやすく答える。

そのうち、「医者と宇宙飛行士って、どっちがお金をたくさんもらえるんですか?」といった質問まで飛び出し、会場は大爆笑に包まれた。しかし、古川さん

は「宇宙飛行士のお給料は、公務員とか会社に雇われている人とほぼ同じです。だから、医者のほうがもつかるかもしれない。だけど、お金よりも大きな夢かなえることにかけてみたいと思ったんです」とまじめに答えてくれた。

最後は全員そろっての記念撮影。ホールから屋外に移動することになった。あつという間に子どもたちに取り囲まれる古川さん。彼らにとつて、実際に宇宙に飛び出してゆく宇宙飛行士に会ったことは、どんな意味を持つのであろうか。

マンガやアニメの世界でしかなかった宇宙が、よりリアルに感じられるようになったことは間違いない。ウルトラセブンに夢中になった子ども時代が、古川さんの宇宙への夢を育ててきたように、この体験が子どもたちの夢や好奇心を大きく育てるきっかけになってくれたらうれしい限りだ。



古川聡さんからのメッセージ

いろいろなことに興味を持ってください。興味の対象は勉強だけでなくスポーツや絵画、囲碁・将棋など、なんでもよいと思います。その中から自分が好きなこと、自分に合っていること、自分が得意なことがきつと見つかると思います。

将来、こんなことをしたいという夢を持ってください。夢に向かって努力してください。夢を持ち続け、かつそれに向かって努力を続ければ、その夢はきつとかなうと信じています。